

公益社団法人こどものホスピスプロジェクト 2020 年度事業計画
(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

1・はじめに：2020 年度の重点として

1) 連続性のあるケアを進めるための、医療連携の強化・拡大

基幹病院の医療従事者と連携し早期からのケアの実現を進めた 2019 年度の取り組みを深めつつ、LTC の子ども本位のケアを強化できるよう、訪問活動や病院内のプログラムの充実、宿泊体制の強化とそのため環境整備を進めます。

2) メンバーとともに、作る、発信する、コミュニティケアの実践

LTC の子どもが暮らしやすい地域社会を拡張していくために、メンバーや元メンバーの子どもたちや保護者と協力しながら、地域社会への働きかけや発信を意識した活動を強化します。子どもを大事にする優しい社会を当事者とともに作っていきけるよう、多様な取り組みや実践を重ねていく予定です。

3) 公益法人運営を軌道に乗せ、ファンドレイジングの強化

2019 年度に公益社団法人の認定を受け、慈善寄付によって運営する組織としてのファンドレイジング基礎ができあがりました。この組織基盤の強みを最大限に生かし、継続的な寄付者（とくに企業・事業主を対象に）を拡大していきけるよう各種アピールできる施策を進めていきます。

2・子どもホスピスケアの取り組みとして

18 歳以下の、生命を脅かす病気(LTC)の子どもとそのきょうだい・親が利用できる TCH として、2020 年度の募集要件に基づきエントリーを受け入れ、子どもホスピスのケアの取り組みの幅を広げていきます。

①【広報募集】募集のための広報・医療機関とのリレーション（病状区分Ⅰ・Ⅱへのアプローチとして）

- ・LTC の子どもが早期から TCH を利用できるようになるよう、数か所の医療機関との連携を進めます。
- ・TCH における利用者、医療者向けへの報告・広報活動を展開します。

②【承認・登録】エントリー、承認手続き、登録

TCH は、地域で支える小児緩和ケアを実践する場として LTC の子どもと家族の抱えるトータルペイン（特に精神的、社会的、スピリチュアルな痛み）に対しアプローチします。TCH では、LTC の子どもがその子らしい、子どもらしい時間を諦めずに生きていけるよう、子ども自身の発意を大切にしながらその子自身の願いや希望に寄り添い、ご家族と協働したケア活動を進めます。

TCH メンバー対象者：生命を脅かされた状態（LTC）の 0～18 歳の子どもとご家族です。

そのうち、2020 年度は以下の要件に該当する子どもを募集します。

2020 年度のメンバー（利用登録者）の募集要件

エントリーの 対象	①病状区分 [※] Ⅰ（緊急期・ターミナル期）・Ⅱ（急性期・不安定期）の状態 ②おおむね 2 歳半～15 歳の子ども ③病気や治療のため、社会的な関わりや交流の機会が非常に乏しい状況にある ④居住地または病院が大阪府内にある（大阪府外の場合は、TCH から公共交通機関で約
--------------	--

	90分圏内にある)	
主な疾患 (カテゴリ)	<カテゴリ(1)> 小児がん・心疾患・神経筋疾患・ 先天性免疫不全など	<カテゴリ(2)> 先天性疾患
年齢	年齢：概ね2歳半~15歳	年齢：1歳~4歳
募集人数	人数：15名	人数：0名（上期は募集せず、下期検討）

③【ケア活動の種類】TCHが提供するケアの形態

2020年度のTCHのケア活動は、以下のような構成で実施する予定です。

◇メンバー対象の個別に相談しながらつくる個別対応系ケア

■デイユース■

子どもの病状や体調に合わせ、その子の発意を大事にしながら、個別に過ごしていただく時間

■ステイ（宿泊）■ ご家族でホスピスに泊まることのできるプログラム。

◎個別宿泊：家族としての充実した時間となるように

◎集団宿泊：体験の充実やピア感のある対象別のキャンプなど

■ビジット（訪問）■子どもの病状によりホスピスへの来館が困難な場合、入院先の病院やご自宅にスタッフが伺い、子どもやご家族と一緒に過ごすプログラム。

■ビリーブメント■

TCHが「あり続ける」「思い続ける」「ともにつくる」という姿勢を大事にしながら、ビリーブメントメンバーとの緩やかな関わりをもつ。そして、月一回、ラビニューデーを設定し、子どもたちの大切な記憶と時間を慈しむ時間をもつ。

◇メンバー対象の集団系ケアプログラム（一部、地域の子どもや友達と一緒に参加できるものもあります）

■フレンズアクティビティ&ピアプログラム■

子ども同士の力によって、子ども自身が成長していけるよう、病状を配慮した複数の子が集まって各種アクティビティができるプログラム。

■TCH地域連携プログラム（企業・団体、病院、広場）■

①支援者とともに、企業の施設などでの実地体験の機会を提供するプログラム、②病院に出向き、子どもたちの意欲を高めるプログラム③地域の皆さんや潜在的関心層にTCHを知ってもらい、支援者を広げるため、地域連携のプログラムの3つのカテゴリで実施する。

■TCH体験系プロジェクト（学童、ティーン向け）■

子どもの主体性を大事に、病気をしたからこそできることがあることを子ども自身の手で作出すプロジェクトを実施。

④【ビリーブメントメンバー対象インタビューによるニーズ調査】

2020年度は、連続性と奥行きのあるケア活動の実践を進めるため、TCHのビリーブメントメンバーの闘病当時の状況やニーズなどを聞き取り、ターミナル期の子どもの療養環境とホスピスと医療連携の可能性を見出す機会を、メンバーと一緒に考える機会を持ちます。

3・広場活動としての取り組み（あそび創造広場活動の推進）

TCHがある「あそび創造広場」は、子どもたちの創造性と協働性を育む、遊びと憩いの場です。子どもを心

から大切に想う、ゆったりとした広場でありたいと考え、子どもがいきいきと遊ぶための場所であり、地域や市民と一緒に作る場所であり、緑いっぱいの自然あふれる場所である、そんな子どもたちのための素敵な場所であってほしいと、地域に開いた様々な活動を実施します。

1) 各種地域向けの取り組み

病気を持つ子どもであっても、心から楽しめる広場になること。あらゆる子どもたちが、思い思いに自由に楽しむ広場として、また市民が子どもや医療、地域社会を考える機会づくりなど、様々な企画を開催します。

□広場イベント... 同じ世代の子どもたちが同じ経験ができるよう、そして、地域に開かれた子どもホスピスとなるように、あそび創造広場としての子どもやファミリー向けイベントを開催。また、TCH を取り組む社会課題に関する周知や啓発、地域社会のあり方を考えるきっかけになるよう、地域に向けた様々な活動を実施します。

□「広場」連携プログラム...あそび創造広場のコンセプトを踏まえ、TCH の取り組みとの連携・協賛ができ、地域や一般の方に向けた企画やプログラムを提供しようとする団体に TCH の施設の一部をご利用いただき、バリエーション豊かなプログラムを地域やメンバーに届けます。

□場の開放、オープンデイの取り組み...TCH 内のカフェスペース「つるみカフェ」と、芝生がある「みんなの中庭」を一般に開放する「ふらっとカフェ」や、TCH の取り組みをご紹介する説明・見学会などを開催。場の開放を通じて、日頃から社会課題に対する関心をもっている市民層だけでなく、近隣の子育て世代を中心に、市民に公園としての原っぱや、あそび創造広場としての TSURUMI こどもホスピスの認知を広げていきます。

2) 原っぱ活動としての取り組み

ハウスキーブボランティアの中の原っぱ整備チームのキャストとともに、原っぱの植栽の維持管理、そして、春にできた園路を活かした植栽の充実と庭づくりを進めます。

4・広報・ファンドレイジング（F R）の取り組み

1) メディア等の外部媒体との連携と、自主媒体としての発信活動

TCH の存在意義と価値を示し、ともに新しい地域社会を作りたいと共感してくださるあらゆる参画者を増やしていくための広報活動を推進します。

①ファンドレイジングイベントごとのキャンペーンを軸にした広報や営業強化

春・秋のファンドレイジング関連イベントの他、「大阪マラソンチャリティ」や「ちょきん DE ぼきんプロジェクト」など、発信を意識したファンドレイジングイベントを推進します。

②主たる企画ごとに広報推進を組み入れた動きとして展開

事業者、医療者、当事者やご遺族など、重点を置いたステークホルダーアプローチのファンドレイジング広報の在り方を探求します。

③各種ネットワークや学会等、医療関係者が集まる場における発表や、「アニュアルレポート」の編纂、発行を行います。

2) ファンドレイジングの活動

安定した財源の構築のために、継続的支援者（TCH マンスリーサポーター等）の拡大が不可欠です。2020 年度も、サポーターの拡大を軸にした寄付収入増加に結び付く取り組みを強化します。

①企業・事業主スポンサーの拡大

中小企業や個人事業主、医療事業者などの経営者層への直接的アピールの機会を増やし、企業・事業主スポンサーの拡大を進めます。

②過去につながった方々とのリレーションを強化

顧客データベースを整備し、過去につながった、もしくは支援いただいた方に再アピールし、一時や継続的な寄付の促進を図ります。

③地域に開いた運営による、ファンドレイジングの強化を

サポーターズカフェやふらっとカフェ、講演会・見学視察の中から、支援者の獲得に努めるほか、メディアとのコミュニケーションを深め、発信力のある企画の展開を模索します。

3) 新規財源の獲得のための活動：各種助成金の申請と支援者管理の拡充

新規財源獲得のため、助成金の新規申請や、協働プロジェクトの開発などを進めつつ、寄付の組織基盤の強化のため、データベースによる顧客管理や法人管理など公益法人基盤の整備を進めます。

5・ホスピスの活動を支える人材と組織基盤の強化

1) TCHの人的な態勢づくり

TCHのケアを支える上で重要となる「ひと」に関することを、以下の構成で取り組んでいきます。

・ホスピススタッフ（キャスト）

看護師、保育士、理学療法士など、ケアに関わる人材を中心にホスピススタッフ（有給スタッフ）を構成。ゼネラルマネージャーがTCHの全体統括を、そして、ゼネラルマネージャーとアシスタントケアマネージャーが連携しながらホスピスケア、連携に関する事業を推進していきます。

・イベントボランティア、ハウスキープボランティア（キャスト）

地域交流プログラムなどをサポートする「イベントボランティア」や、イベントや運営をサポートする「イベントボランティア」や、ハウス・広場の環境整備を行なう「ハウスキープボランティア」など、TCHのスタッフと協働しながら、事業を進めます。

2) こどもホスピスケアに関わるスタッフ育成

TCH開始から4年間の経験を踏まえ、ケア人材の拡充のため、OJT型のTCHケア人材の実践のためのインターンプログラムを開始し、ホスピスケアの人材強化を進めます。